

2021 J3 ■順位表 ■第2節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

（注：*印は消化試合が1つ少ない）

1	富山	6p	+2	3	1	
2	岐阜	4p	+2	3	1	---
	長野	4p	+2	3	1	
4	鳥取	4p	+1	4	3	
5	熊本	4p	+1	3	2	
6	岩手	4p	+1	2	1	
	福島	4p	+1	2	1	
*8	沼津	3p	+1	1	0	
9	鹿児島	1p	-1	4	5	
10	八戸	1p	-1	1	2	HΔ
	宮崎	1p	-1	1	2	
12	藤枝	1p	-2	1	3	AO
13	YS横浜	0p	-2	1	3	
*14	讃岐	0p	-2	0	2	
	今治	0p	-2	0	2	

次回HomeGame

第5節 vs. アスルクラロ沼津

4/11 (日) 16:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 **ホームラン**名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : カマタマーレ讃岐

2020 J3 7勝10分17敗 勝ち点31:16位

直近の対決と結果

2020/11/28
J3-30節@ピカスタ讃岐 0-1 岐阜
川西翔太 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		カマタマーレ讃岐	
2021/03/21 J3-02節@藤枝サ 藤枝 1-3 岐阜		2021/03/14 J3-01節@ピカスタ 讃岐 0-2 長野	
2021/03/14 J3-01節@長良川 岐阜 0-0 八戸		2019/12/20 J3-34節@ピカスタ 讃岐 3-2 福島	
2020/12/20 J3-34節@パナスタ G阪23 2-1 岐阜		2019/12/13 J3-33節@えがおS 熊本 3-0 讃岐	

●いよいよ開幕した2021年J3リーグ。我らがFC岐阜も、3/14(日)に八戸をホームに迎えて開幕戦が行われた。昨季達成できなかった『J3優勝・J2昇格』という目標のためには、この開幕戦で確実に勝利を掴みたい岐阜だったが、攻撃がうまく繋がらない。一方では安定した守備により八戸の攻撃を防ぎ続けたものの、何度か手にした決定機にゴールを奪うことができず、結局はスコアレスドロー。勝ち点1を分け合う結果となってしまった。続く3/21(日)第2節・アウェイ藤枝戦は、春の嵐の中での試合となった。前半は風上に立った岐阜は、試合開始早々に#10川西翔太のゴールで先制、そして#8中島賢賢が見事なFKを直接決めて追加点。さらにCKの折り返しを#28三ツ田啓希が豪快なヘッドで叩き込み、前半の飲水タイムまでに3得点を挙げた岐阜。後半は逆に風下に立った影響もあって、試合を優勢に進める藤枝に失点を許してしまったものの、この1失点で守り切って3-1での勝利。悪天候にも関わらずアウェイの地に駆けつけた多くのサポーターの前で、今季初勝利を手にすることができた。この2試合の結果、FC岐阜は勝ち点4を手にして順位は2位タイ。もちろん、全28試合中の2試合しか消化していない状態でチームの好不調を語るのは早計だが、首位・富山との勝ち点差が2、つまり1試合の結果次第で順位が逆転できる位置につけていること、そして今季初ゴール・初勝利を挙げられたことで、チームには精神的な余裕が生まれているだろう。ただし、先述したようにまだ2試合。今季のJ3は現在のところ、試合間隔に余裕のある日程なので、しっかりと目の前の試合に対して準備し、着実に勝利を掴み取ることが、今後もチームには求められるだろう。まずは、今日のこの試合に勝つことが必要だ。

さて、今節の対戦相手は、カマタマーレ讃岐だ。3か年計画の初年度だった昨季は16位。2年目の今季は、G大阪で長年育成に貢献し、昨季からGMに就任した上野山信行氏を兼任監督とし、幾人もの若手選手をレンタルで補強するなど、さらなるチームの底上げを図っている。現在の順位は14位だが、讃岐は第1節に長野と対戦して0-2で敗戦したが、第2節には試合がなく、この成績はあまり参考にならない。逆に讃岐は2週間をかけて今節の岐阜との対戦に焦点を当てて準備をしている分、アウェイ移動の負担はあるだろうが、コンディショニング的には讃岐の方が上と見る方が良いだろう。気を引き締めて臨まなくてはならない。

讃岐との(Jリーグでの)通算対戦成績は、FC岐阜の6勝2分4敗・17得点15失点と勝ち越している。直近の対戦である昨年11/28(土)第30節・アウェイ戦では、前半から岐阜が攻勢に出るも無得点で折り返すが、後半早々には#10川西翔太のゴールで先制する。だが、決定機阻止で退場者を出してからは防戦一方となり、何とか守り切って1-0で勝利している。ただし、岐阜のホーム戦に限れば対戦成績は2勝2分2敗・8得点7失点と互角の状態だ。昨季の7/11(土)第3節のホーム戦では、大雨によりピッチ状態が悪い試合だったが、自ゴール前での安易なミスで#9栗田マークアジェイにゴールを決められ、先制点を許してしまう。その後なかなか決定機を作れないまま時間が経過し、試合終了間際に#4甲斐健太郎の撃ったグラウンダーのミドルでようやく同点に追いつき、1-1でのドロー。今節こそは、そのようなミスで失点することなく、確実に勝利しなくてはならないが、讃岐は若い選手が多く、勢いづかせると厄介な相手になるだろう。その若手主体のチームをまとめるのが、主将を務めるベテランCB#30竹内彬だ。また、讃岐のJ参入(14年)から加入している#10高木和正は、かつては岐阜に在籍(06年~09年)し、岐阜のJ昇格にも貢献してくれた選手だが、今節は活躍させる訳にはいかない。

前節と同様に悪天候での試合が予想されているが、僕たちサポーターはコロナ感染防止策に注意しつつ、可能な範囲で選手たちの後押しをしよう。タオマフやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを緑に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。連勝を達成し、観戦ルールと社会的距離を守りながら、今季ホーム初勝利の喜びをみんなで分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第1節】岐阜 0-0 八戸

●いよいよ 2021 年の開幕戦。昨季は過密日程で年末までリーグ戦を戦ったことを考えれば、3月から余裕を持って開幕する J3 というのは、正直気分的にも助かります。そして、実は昨季よりも良いんじゃないかと思われる今季の選手補強、一方でコロナ禍で練習も TM も（ダイジェストや記事以外は）見ていない、つまり未知の状態でのお披露目試合。過度な期待はダメだと分かりつつも、でも開幕戦はどうしても期待してしまうものです（笑）。

さてスタメンは……おっと #7 村田透馬を起用なのね。TM の試合結果だと #16 富樫佑太がよくゴールを決めてたような印象だったのだけど、まずは裏抜けのスピード勝負なのかな……という僕の予想は、ある意味では当たっていた。しかし、その相手 DF ラインの裏を狙うボールが、ことごとく前線に繋がらない。相手ボールを積極的に奪うところは良いのだけど、そこから清々しいまでに素早く“縦ポン”。しかしパスの精度なのか動き出しのタイミングなのか……まさか、“いづれ美しく”って、『そのうち繋がるでしょ』って意味じゃないよね！？（苦笑）もっとも、1回でも上手く繋がれば大きな決定機になるため、何度も繰り返していけば……と、#7 透馬が抜け出して GK と 1対1 になったループシュートは枠の外……（溜息）。彼の“高校の先輩”が J1 開幕戦で決めたループと重なって見えたんだけどなあ……（苦笑）。そのほかは決定機らしいものがほとんどないまま、前半終了。後半に入ると、直後に #7 透馬に PA 内でビッグチャンスが訪れるも、上空に打ち上げてしまいノーゴール。あれは決めてほしかった……（溜息）。その後、#16 富樫佑太が交替で投入された辺りからは、流石に縦ポン一辺倒ではなく、中盤で繋いでから前線へのパスなども見られるようになったけれど、それでも、決定機までには至らない。逆に徐々に、ボールを奪う際の運動量が落ちてきて、八戸に試合を握られる時間帯も出てくるようになってしまう。幸いなことに 3バックの守備陣はしっかりとボールを跳ね返してくれてたけれど、CK でヤバいボールがゴール前を通過していった時は、心臓が止まるかと思いました（苦笑）。

初の実戦で動きが硬くなってしまったのか、大きな見せ場もほとんどなく、スコアレスドローで終わってしまった開幕戦。もっとアグレッシブにボールを全員で奪いにいたり、あるいは相手ゴール前にプレッシャーをかけるサッカーをするのかと、僕は勝手に希望的観測で想像していたものだから、ちょっと拍子抜けというか、なんというか……（苦笑）。一方で、これならば新加入した #42 柏木陽介にも活躍の可能性が十二分にあるなあ……と（笑）。ただし、無然とした表情で首を振りつつインタビューに向かった（そして痛烈に自分たちにダメ出しをした）#4 甲斐健太郎キャプテンの姿に、まだ希望が残っていると感ずることができたのは幸いでした。

そうそう、そんな試合でも特筆すべきは #14 本田拓也。1 ボランチ（アンカー）として、試合の流れを察知する戦術眼、相手の攻撃の芽を刈り取るカバーリング能力、流石でした。長良川で、カバーリングに感嘆する唸り声を聞くのは、僕は初の経験かもしれない。#14 ホンタクさんが今季好調を維持してくれれば、不用意な失点は減るだろうという希望が見えたのも、この試合で得られたものでした。

（ささたく）

●開幕戦にして全勝優勝の夢は潰えた。正直、拍子抜けだったけれども、開幕前の妄想は毎年恒例のことだし、自分勝手に盛り上がっていただけのことなので、全部身から出た錆ではある。ただ、TM などの評価が高かったこともあって、例年、少なくとも昨季よりは舞い上がっていたのは間違いない。それでも、この試合の八戸に、昨季はダブル（ホームもアウェイも勝つこと）だった相手に無失点とはいえ、勝ち点 1 という結果は釈然としないものがあるなあ。もちろん、ウチも向こうも大きくメンバーが変わっているのは承知の上だが、目

標が昇格、優勝であるならば、是が非でも勝ち点 3 を取らねばならない試合だった。試合終了時の脱力感ハンパなかった。今季は 28 試合なんだよ？と。勝ち点 3 と 1 の重みはデカイぞ？

しかしながら、何日かが過ぎ、DAZN で見直してみると、「まあ、開幕戦だし、風の影響もあったし、残念だけど切り替えなきゃしかたないか。」と思えてきた。時間も経過してるし、映像というフィルターもあるし、ということで現地観戦の時よりはマシに見えるね（苦笑）。

それでも、自分の感想は基本的には変わらず。総括としては、実に潔く、躊躇いなく蹴ってたね、と。あと、トーマはシュート練習な。そこは試合直後も現時点でも変わらない。開始早々のアレを決めたら自身の J 初ゴール。ソレを決められなくて、ウチからも J からも姿を消した選手を何人も見てきた。中には、ちゃんと決めたのにオフサイドと言われたり、ちゃんと胸で押し込んだのに手を使ったと言われたりで認められなかったケースもあった。あのシュートが今季のウチの運命を決めることになるかもしれない。だから、次は決めてくれ。掌返しの準備は出来ているから。

それと、賢星。どこにおった？吉濱が交代してから CK まで全然見かけなかったような気がするが、ボクの目がどうかしていたんだろう、たぶん。ただ、吉濱のミドルは魅力。で、なんで下げたの？そのあたりも、いささか腑に落ちないところではある。あ、ホンタクはいいゾ！ただ、接触プレーで痛がつてる場面のたびに肝が冷えた。あんなプレーの連続で今シーズンを全うできるのだろうか？どうか、くれぐれもケガだけには気をつけてください。周りの選手もホンタクさんに過度の負担をかけないように十分心がけてくださいね。

とりあえず、無失点と併せての勝ち点 1 によって溜飲を下げておくことにしましょう。次の長良川では絶対にバンザイ四唱、やりましょうね！その前に次節のアウェイ藤枝で凱歌を。頼んだよ！

（ぐん、）

●試合終了の笛が鳴った瞬間に、メインスタンドのそこかしこから一斉に湧き出したため息の数々。それを録音して、次のホーム戦まで毎日、選手もコーチも練習開始前に聴いてほしい。そんな試合だった。

SNS に流れてくる、（広義の）クラブ発の、ポジティブ・シンキングに溢れたコメントに、今年の、あの「どうしようもない『どうしようもなさ』」から解放してくれるだろうとの期待感は強くなっていった。だから、この八戸戦は「勝つか、負けるか」の視点で観ていなかった。「どう勝つか」だけだった。傲慢だとか八戸へのリスペクトレスとかではない。大河ドラマ『徳川慶喜』で、慶喜役の本木雅弘が剣の稽古中に『相手に勝つ秘訣』を訊かれ「相手を呑むことだ、頭から丸ごと呑むことだ」と答えたシーンがあったけれど、そんな感じだ。ところが。

「え、今年の岐阜のサッカーって、これなの？」。ものの見事にはしごを外された気分。火葬になった麻薬中毒患者の骨のようにぐずぐずと崩れ落ちていく期待感。ただひたすら、裏を狙う動き、裏にめがけて蹴り出す攻撃。もちろん、それは戦術の一つだしそれで効果があれば問題ないのだけど、狙った裏に出てくるはずの、出しているはずのボールがことごとく、雑。なんか、「裏狙いで攻撃をする」というテーマで臨んだ練習試合のようだった。軍事演習で使う『状況を開始する』というヤツだ。結果、決定機はおそらく八戸の方が多かったという、惨憺たる、そして暗澹たる 90 分が過ぎて試合が終わった。

最初に書いた、メインスタンドのため息。おそらく、あのため息の発生源の何人かは、次回から長良川に来てくれないだろう。あれは、そういう類のため息だ。

（吉田鑄造）

【第2節】藤枝 1-3 岐阜

●“春の嵐”と形容するに相応しい天候でのアウェイ。不安と課題の残る内容だった開幕戦の次の相手が、難敵・藤枝。しかも藤枝を率いるのは、かつて岐阜でも指揮を執った倉田安治監督。いきなり2戦目で優勝のライバルと目されるチームとの対戦だが、勝たなければ第2節にして、優勝争いに警告灯が点ってしまう。

スタメンは、#41 吉濱遼平に替えて#23 大西遼太郎…あら、そっち？（苦笑）。前節が後半のFW陣の方がバランスが取れてたような気もしたのだけど……と、流石に今節は天候の影響もあってか、前節ほど“縦ポン”ではなくボールを縦へ繋ぐスタイルに変更。また、強風の風上に立った岐阜は有利に、藤枝には不利な状況となる。すると、相手PAでボールを得た#7 村田透馬がバックパス、これを#8 中島賢星がシュートすると、相手DFが触れてこぼれたボールを#10 川西翔太が決めて先制点！おいおい、前半5分の最初のシュートで得点かよ！前節の苦労は何だったんだ！（苦笑）……と一息つく間もなく、今度は9分に#8 賢星が長距離のFKを直接決めて追加点！いやー、風とピッチ状態を考え、無回転で撃つたゴラッソでした。さらにさらに、前半23分にはCKの跳ね返りで再度のクロスを#28 三ツ田啓希が豪快にヘッドで叩き込んで3点目（J初ゴールおめでとう）！おいおいおい、これが“ケチャドバ”ってヤツですか？（笑）ただ、流石に藤枝も3失点して修正してきたのと、直後に#8 賢星が腿を痛めて交替（僕は大量得点なので大事を採ったのだと信じている）してからは、岐阜の攻撃のペースが鈍る。そして後半は、逆に風下になった岐阜が押し込まれる展開に。特に藤枝が#20 森島康仁を投入してからは、その度合いが増してゆく。それでも、選手を交替させつつ守備固めと追加点の機会を狙っていた岐阜だったが、ついに後半78分にゴールを割られてしまう。うーん……3バックで1ボランチだと、両WBの裏、ボランチの両脇のスペースは狙われてしまうから、WBは素早く上下動してスペースを塞がないとダメなのに、そこを縦に突破した相手選手について行けなかったのが失点の大きな原因だと思う。今後も、あのスペースは狙われ続けるのが明白なのだから、しっかりと修正して欲しい。

前日にJ1・札幌が3点差を神戸に逆転された試合を見ていたこともあり（え、僕自身は体験した記憶がありませんよ？（笑））、嫌な予感が脳裏をかすめたけれど、幸いなことに杞憂に終わった。1失点は余計だったけれど、3-1での快勝。この勝利で、チームにも勢いが出てくれるだろう。だけど……こういう勝ち試合は、ホームでやりなさいってば（苦笑）。どうも、ウチは昔からアウェイの方が勝つという傾向が強くて、昨季も勝ち試合はアウェイの方が多いですよ。ホームでは必ず勝ち、アウェイでは負けない。そういう試合ができれば、長良川に駆けつけるサポーターもさらに増えるのに……と僕は思う。まずは今日のホーム戦で連勝、ここからだ！（ささたく）

●久しぶりにアウェイ参戦を目論んでチケットも購入していたんだけど、天候も考えて遠征を断念。だからこそ、現地に赴き、選手の後押しをされた方々へ敬意を表したい。現地で歓喜を分かち合いたかった。羨ましいです。電光石火の、とは言えないですが、前半の早い内に3得点。ただ、ウチには「3-0はキケンなスコア」という悲しい言い伝えがあります。前半終了時の3点差は安心出来ない。特にアウェイは危険。なので、気を引き締めたままのDAZN観戦。そしたら、やってきましたよ。4点目の絶好機。なのに……、トーマあ～。飲水タイム後のロングフィードから、GKとの一対一になりそうだったアノ場面。アレは、絶対、シュートまで持っていかなきゃいけない場面。利き足じゃないけど、左で思いっきり、あるいは開幕戦のようにループで狙って欲しかった。代表に選出されたカレなら、高校の先輩なら決めて

たと思うよ。ああいうのをどしどし決めて、先輩と肩を並べるくらいにはなって欲しい。期待してます！掌返しをする準備は万端なんだ。

それにしても、『ウチって、直接のFKで得点してもよかったのか？』という驚き（爆笑）いつ以来ですか？この興奮と感動は。いや、何度見返してもスゴイよね。どうして決まったのか、今でもよくわからない（笑）超ド級の速さがあったワケでもないし、メガトン級の破壊力があつたワケでもない。ただ、間隙を縫うように、そして虚をつく感じで落ちたように見えた。それから、目いっぱい伸ばした藤枝のGKの指先をあざ笑うかのようにすり抜けてネットを揺らす。なんというか、「悪魔の所業」とでもいうような色気のある魅惑的なFKだった。そんなん撃てるんだつたら、もっと以前から撃つてくださいよ、ホントにもう。ただ、好事魔多し。とんでもない能力の持ち主であることは実感したので、一日でも早い復帰を祈っております。でも、焦らず、しっかりと完治させてくださいよ？お願いします。待ってるぜ、賢星！しかし、勝ったから言えるんだけど、相変わらず、押谷はメンドクサイね。でもって、大石はイヤラシイし、デカモリシは怖かった。それを一点で抑えたんだから、誉めてあげたいところだけど……。藤谷の裏が開くのは昨季も見てる。ソコはなんとかして欲しいが、キャプテンのアレは軽率。スライディングにいくな、絶対ボールを刈り取らなきゃ。猛省必至、だね。もちろん、わかってるとは思うけど。それから、後半に追加点を挙げられなかった攻撃陣。ことに、ゴールをオフサイド判定されてからは得点の匂いすら漂ってこなかった。同じく猛省必至です。とはいえ、悪天候にも真正面からぶつかって勝ち取った今季初勝利。次は、長良川でのバンザイ四唱をお願いします。

いろいろ見どころのあつた今季のアウェイ初戦。何よりビックリしたのは、アレほどの、暴風雨といってもおかしくない天候なのに、水飛沫がほとんど上がらなかったピッチに感激。ウチのグラウンドと総取っ替えしませんか？そうだ！今度、長良川で勝ってダブルにしたら景品として貰えるってことで、どうでしょう？

（ぐん）

●昨年は新型コロナの影響で帰省を自粛していた為にホーム試合に参戦出来ず、又関東付近のアウェイ試合も諸般の事情で行けませんでしたので、今回の藤枝戦は2019年シーズン以来1年4か月ぶりの現地観戦となりました。当日は予報通りの大雨でしたが、岐阜側の応援席には沢山の人が出て、何人かの方とは新年の挨拶もする事が出来ました。

試合は3対1での快勝！八戸戦のようなもどかしさを感じる事も少なく、帰りに味噌溶きラーメンや黒ハンペンといった好物を食べる事も出来ましたので、とても良いアウェイ参戦となりました（笑）。次の参戦はどこに行けるかな？楽しみにしています。

（ヤックル）